

プーチン：「世界地図に米基地を書き入れてみよ、米露の違いが分かるから」

イタリア紙のプーチンへのインタビュー（抄）

【訳者注】このインタビューはごく最近行われたものだが、すでに各方面で引用されている。この翻訳では、冒頭（イタリアとロシアの関係）と末尾（ギリシャ問題など）の部分を省いたが、プーチンという人の考えと人柄がよく現れていると思う。なぜ彼が世界中から敬愛されるかが、これでわかるであろう。私はこれを、政府とメディア関係者に読んでいただきたいが、安保のしがらみのある政府よりも、直接の影響力をもつメディアの方々に読んでもらいたい。アメリカの御用メディアの尻馬に乗って、単にプーチンとロシアを叩いている人々は、顔を赤らめるであろう。プーチンを称える人たちが共通して指摘するのは、アメリカの挑発に乗らない彼の忍耐強さ、思慮深さ、それに度量の大きさである。政治家として世界が求めているのは、こういう人物であろう。

By Corriere della Sera

June 9, 2015 (Information Clearing House)

.....

Paolo Valentino: 大統領、先ほど、我々の関係に影が差しているという話をしたとき、あなたは、それは自分たちの選んだことではないと言われました。ロシアは愛人に見捨てられた男のように、ヨーロッパに見捨てられ、裏切られたと感じているという意見があります。今日、これらの関係の何が問題でしょうか？ あなたは、ウクライナ危機においてヨーロッパはアメリカに頼り過ぎているとお考えですか？ 制裁に関連して、あなたはヨーロッパに何を期待されますか？ 一度にあまり沢山の質問をしたかもしれませんが。

Vladimir Putin: 確かに沢山の質問ですね。さすがイタリア人の質問だな。(笑)

まず、愛人についてですが。この種の女性との関係であれば、つまり義務ということが想定されていないならば、あなたは相手からどんな義務も要求する権利はないでしょう。

我々はヨーロッパを愛人と考えたことはありません。私は全く真剣に言っています。我々は

常に真剣な関係を提案してきました。しかし今、ヨーロッパは、現実到我々との物的な関係、しかももっぱら自分の利益のための関係を築こうとしている印象を、我々は受けています。悪名高い「第3エネルギー・パッケージ」というものがあって、協定が存在するにもかかわらず、我々の核エネルギー産物がヨーロッパ市場に入ることを拒絶する動きがあります。我々の行動の合法性を認めたくないという、また旧ソ連の領域では、統合的連合に協力したくないという風潮があります。私が言っているのは関税同盟のことで、これは我々が作り、現在は「ユーラシア経済連合」になっています。

ヨーロッパで統合がなされても OK なのに、我々が旧ソ連の領域で同じことをやると、彼らはこれを、帝国の再建を狙うロシアの欲望だなどと説明しようとしています。なぜそのような考え方をするのか私には理解できません。

いいですか、我々は、私を含めてすべて、これまで長い間、リスボンからウラジオストックまで延びる、共通の経済圏を構築する必要を論じてきました。実は、フランス大統領シャルル・ドゴールが、私よりはるか前に同じことを言っていたのです。今日それに反対する者はいません。誰もが、「そうだ、それを目指すべきだ」と言っています。

しかし現実には何が起こっていますか？ 例えばバルト3国は EU に参加しました。よろしい、何も問題はありません。しかし今日、我々が聞かされているのは、これらの国家が旧ソ連とロシアのエネルギー・システムの一部なのに、彼らは EU のエネルギー・システムに属すべきだ、ということです。我々は訊ねたい——エネルギー供給や、それとも何か別のことに、何か問題があるのですか？ なぜそんな必要があるのですか？ そんな必要もなく何も問題はありません。それなのに我々は、この方がいいと決めてしまったのです。

これは現実的に我々にとって、どういうことを意味するのでしょうか？ それは我々が、ロシアのどこか西の地区に、追加の発電施設を作ることを強制されるということです。送電線がかつてはバルト諸国を通過して、ロシアの一部に届き、その逆もあったのに、今はそのすべてのスイッチがヨーロッパに切り替えられることになり、我々は電気供給を確保するために、新しい送電線を我が国に作らねばならなくなります。これは我々にとって 225 億ユーロの出費になります。

さらに、EU - ウクライナ連合協定を考えてみましょう。この協定は、ウクライナが欧州エネルギー・システムの一部になることを要求していませんが、それは可能と考えられています。もしそういうことが起これば、我々は 225 億ユーロどころでなく、同じ目的のために、おそらく 8,100 億ユーロを支出しなければなりません。問題は——もし我々が、リスボンからウラジオストックまで、共通の経済圏を作るのがよいと考えているのだとすれば、なぜそ

れが必要なのか、ということです。EUの東方パートナーシップの目標は何ですか？ それは旧ソ連全体を、ヨーロッパと一つの空間へと——3度目繰り返しますがリスボンからウラジオストックまで——統合することなのか、それとも、何かを切り離して、新しいロシアと西側領域の間に、例えばウクライナとモルドバの間に、新しい境界を設けることですか？

もう一つ別のことを言いましょう。あなたはこれを公表すべきか、ボツにすべきか、自分で決めてください。

ウクライナ危機の根源は何ですか？ その原因は、南東ウクライナの多くの人命を要求した、今日の完全な悲劇となったものと比べると、全く釣り合いが取れないように思えます。この危機に火をつけたのは何ですか？ 前の大統領ヤヌコヴィッチが、ウクライナとEUとの連合協定に合意することを考えてみる必要があるだろう、それにはある変化が必要で、主要な取引と経済のパートナーであるロシアと、相談する必要があると言ったのです。それに関連して、またはそれを口実にして、暴動がキエフで起こったのです。それをヨーロッパやアメリカの、わがパートナーたちが積極的に支持しました。そこでクーデタが起ったのです。完全に憲法に違反する行動です。新しい政府は、連合協定にサインするつもりだが、その実行は2016年1月1日まで延期すると発表しました。問題は——何のためにクーデタが行われたのか、なぜ彼らは事態をエスカレートさせて、内戦にまでもっていく必要があったのかです。その結果は全く同じです。

それだけでなく、2013年の終わりに、我々はウクライナに国家ローンとして、150億ドルを与え、さらに商業銀行を通じて、50億ドルを追加する用意があったと言っていたのです。それにプラスして、我々はすでにその年の間に30億ドルを渡し、きちんと払ってくれるならガス料金をカットすると約束していました。我々は、ウクライナがEUと連合協定を結ぶことに全く反対しません。しかしもちろん、その最終決定には参加することを望みました。その意味は、ウクライナはその時も、今も、CIS自由貿易エリアのメンバーで、我々はその加入者としての相互の責任があるからです。

それを完全に無視するということが、それに全く敬意を払わないということが、どうして可能なのですか？ 私にはそれが全く理解できません。その結果我々が与えられたのは、クーデタ、内戦、何千という失われた人命、経済と社会システムの荒廃、IMFがウクライナに約束した175億ドルの4年間ローン、それにロシアとの経済的絆の完全な断絶です。ロシアとウクライナの経済は深く断絶したままです。

EUは一方的に、ウクライナに対してその関税を撤廃しました。しかしヨーロッパ市場へのウクライナの売り上げは伸びませんでした。なぜですか？ 何も売るものがないからです。

ヨーロッパの市場には、質から言っても価格から言っても、すでに前に買った製品の上に、ウクライナの製品に対する需要がないのです。

我々はウクライナに対する市場をもっています。しかし多くの絆がウクライナ側から一方的に切られました。例えば、我々の戦闘用ヘリコプターのエンジンは、すべてウクライナから来ていました。今、その配達は止まりました。我々はサンクトペテルブルグに工場を1つ作り、もう1つ今年中に完成する予定です。しかしウクライナでのこうしたエンジンの製造は閉鎖されるでしょう。なぜならイタリアもフランスもドイツも、そのようなエンジンは必要としておらず、今後も同じだからです。ウクライナがその製造を別方向に切り替えることは不可能です。そのためには何十億の投資が必要でしょう。

なぜこういうことがなされたのか、私には理解できません。私はヨーロッパやアメリカを含め、多くの同僚にその質問をしました。

Paolo Valentino: それで、どういう返事がありましたか？

Vladimir Putin: 事態がコントロールできなくなった、ということです。

私はあなたと、あなたの読者に一つ言いたいことがあります。昨年2月21日に、ヤヌコヴィッチ大統領とウクライナ野党が、どのように国を運営するか、どのようにこの国の政治的生命を組織するかについて、合意しました。特に3人のヨーロッパの外務大臣が、その実行の保証人としてこの合意に署名したからです。

もし、これらの同僚（外務大臣）たちが、見かけのために利用されているだけで、現場の状況をコントロールできず、実はそれは米大使とあるCIAの駐留者に握られていたのであれば、彼らはこう言うべきでした——「知っておいてもらいたいが、我々はクーデタには賛成しなかった。だからあなた方を支援するつもりはない。あなた方はその代りに選挙を行うべきなのだ」。

我々のアメリカのパートナーについても同じことが言えます。彼らもまた、状況のコントロールができなくなったと考えられます。しかし、もし米と欧が、こういう憲法に違反する行為を取った人々に対し、「あなた方がそういう方法で権力につくのなら、我々はどんなことがあってもあなた方を支持できない。選挙を行って勝つべきだ」と言ったなら、状況は完全に異なった方向に展開したでしょう。

それで私は、この危機は故意に作られたものであり、それは我々のパートナーたちの政治家

らしくない行為の結果だと考えます。しかもこの過程についての報道は、完全に受け入れられませんでした。私はもう一度強調したい。これは我々の選んだことではありません。われわれはそれを求めなかった。我々は単に、起っていることへの反応を強いられているだけです。

結論として——こんなに長々と一方的にしゃべったのを許してほしいですが——**私が言いたいのは、我々が騙されたとか、不当に扱われているということではありません。それがポイントではありません。ポイントは、相互の関係は、長期的な基盤の上に、対決の雰囲気ではなく、協力の精神の中で築き上げなければならないということです。**(強調記者、以下同じ)

Paolo Valentino: 状況がコントロールできなくなったという話がありました。しかし今こそロシアがイニシアティブを取って、アメリカやヨーロッパのパートナーたちを、この状況の解決の道へと引き込むべき時ではありませんか——この問題と取り組む用意があることを示すために？

Vladimir Putin: まさしくそれが我々のやっていることです。私の考えでは、今日、我々がミンスクで、ミンスク II と呼ばれて、合意した文書が最善の合意であり、おそらくこの問題の唯一疑問の余地のない解決の道です。私たちは、もしそれが正しく、公平で、実行可能だと考えなかったら、決してそれに合意しなかったでしょう。

我々の側ではあらゆる努力をしており、これからも努力を続けて、未承認のドネツクとルガンスク共和国の政府を説得しようとしています。しかし、それですべて片が付くものではありません。我々の欧と米のパートナーたちが、現行のキエフ政府に影響を与えなければならない。私たちは、欧や米がもっているような、ミンスクで合意されたすべてを実行するようにキエフを説得する力を、もっていません。

どうしたらよいのか言うことができます。私は、あなたの次の質問を先取りしているかもしれない。この政治的解決の肝心の側面は、この共同作業の条件を作ることでした。しかし、そのためには敵対行動をやめて、重火器を引き上げることが絶対必要でした。おおむねそれは実行されました。不幸なことに、いまだに時おり銃撃があり、死者が出ています。ですが大規模な敵対行動はなく、双方が分離しています。今がミンスク合意を実行し始めるべき時です。

特定のには、未承認の共和国の自治権を保証するために、憲法の改正がなければならない。キエフ政府はそれを“自治”と呼びたがらず、“脱中央集権”といった別の言葉がいいようです。我々のヨーロッパ・パートナーたち、ミンスク合意書でそれに当たる条文を書いた人

私たちは、脱中央集権という言葉の意味を説明しました。

それは、彼らが自分の言葉話し、独自の文化的アイデンティティをもち、国境を越えて取引をする権利を彼らに与えるものです。これは、どんなヨーロッパの国家であっても、少数民族の権利の進んだ理解として、特別のものではありません。

これらの地域の市政選挙と、恩赦に関する特定の法律が、採択されなければなりません。ミンスク合意によれば、これらすべてが、ドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国との協調のもとに、実行されなければならない。

問題は、現行のキエフ政府が、彼らとともに、席について話す気さえないということです。これは我々も、どうすることもできません。この状況に影響を与えることができるのは、欧と米のパートナーだけです。我々を制裁で脅かす必要はないのです。我々はそれには関与できない、我々の出番ではないのです。我々はミンスク合意の実行を求めているのです。

これらの地区の経済的・社会的再建に取りかかることが不可欠です。正確に何がそこで起ったのでしょうか？ 現行のキエフ政府は、彼らを、国の残りの部分からすっかり切り離してしまいました。政府はすべての社会的支払い、年金や給付金を打ち切りました。また銀行の利用も打ち切り、規則的なエネルギー供給とか、その他諸々を打ち切りました。だからお分かりの通り、これらの地区で起こっているのは、故意の人道災害です。しかもあらゆる者たちが、何も問題がないかのようなふりをしているのです。

我々のヨーロッパの同僚たちは、ある程度の義務を感じていて、特に、彼らはこの地区での銀行システムの復興を約束しました。我々にどうことができるか、しなければならないか、誰がすべきかを、我々がしきりに言ったために、やっと EU は確かにウクライナに対し、財政援助ができるようになったと私は考えています。これらが主要なポイントです。

私が強調したいのは、ロシアは、ミンスク合意の完全な無条件の実行に関心があり、これを実現させようと努力していることです。今の段階で、これ以外にこの紛争を解決する方法はないと私は考えています。

ついでに言えば、共和国を宣言している国のリーダーたちは、ある条件の下で——すなわちミンスク合意が実行されるという条件で——**自分たちをウクライナ国の一部として考える用意があると、公に表明しているのです。**これは根本的な問題です。この立場は、実質的な交渉を始めるための、有効な前提条件とみなすべきだと考えています。

我々のすべての行動は、武力の行使をも含めて、この地区をウクライナから引き離すためではなく、そこに住む人民が、どのような生活を望んでいるか、意見を述べる機会を与えるためです。

前に何度も言ったことをまた繰り返しますが、もしコソボのアルバニア人にそれが許されたのであれば、ロシア人、ウクライナ人、そしてクリミア半島に住むクリミアン・タタール人には、なぜ許されないのですか？ しかも、コソボの独立はもっぱらコソボ議会によって決定されましたが、クリミアでは地域全体の国民投票が行われました。良心的な観察者なら、人民がほとんど満場一致でロシアとの再統合に賛成した様子が、目に入らざるを得なかったと思います。

それを認めたくないという人々に訊ねてみたい——もし我々に反対する人々が民主主義者を自称するなら、民主主義とは正確にどういう意味ですか？ 私の知る限り、**民主主義とは人民のルール、あるいは人民の意思に基づくルールです。だからクリミア問題の解決は、クリミアの人々の意思に基づいてなされます。**

ドネツクとルガンスクでは、人々は独立賛成の投票をしました。だがそこでは事情が異なります。しかし主要なこと、我々がいつも頭に置かねばならないことは、人民の感情と選択を常に尊重すべきだということです。そしてもし、これらの地域がウクライナの一部としてとどまってほしいと言う人々があるなら、彼らは、そこに住む人々に、暮らしがもっとよくなり、もっと快適になり、一つの統合された国家の内部でもっと安全になり、自立して生活でき、この国の中で子供たちの未来の保証ができることを、証明しなければならない。しかし武器を使ってこれらの人々を納得させることはできません。これらの問題、この種の問題は、平和的手段によってのみ解決することができます。

Paolo Valentino: 平和と言え、かつてワルシャワ条約の同盟者で、今は NATO 国家になっているバルト 3 国やポーランドは、ロシアからの脅威を感じています。NATO はこれらの懸念に対処するために特別の軍隊を作る決定をしました。私の質問は、いわゆる“ロシアの熊”を抑えるための西側の決定は正しいかどうか、またなぜ、ロシアはいつも、これほど喧嘩腰の物言いをするのか、ということです。

Vladimir Putin: ロシアは誰に対しても、喧嘩腰で物を言うことはありません。そのような問題についてなら、過去の政治的重要人物、オットー・フォン・ビスマルクを引用すると、**重要なのは議論でなく潜在性**です。

現実の潜在性は何を示していますか？ アメリカの軍事出費は、世界の他の国家すべてを

合わせたそれよりも高いのです。NATO 諸国の軍事費すべてを合わせたものは、ロシア連邦のその10倍——いいですか、10倍です。ロシアは海外にほとんど基地をもっておりません。我々は、ソ連時代の軍隊の残りを、アフガニスタンとの境界のタジキスタンに置いていますが、これはテロリストの脅威が特に高い地域です。同じ役割がキルギスタンの航空基地でも果たされています。これもまたテロの脅威に備えるもので、テロ攻撃がキルギスタン国境のアフガニスタンであった後、キルギス政府の要請によって設置されたものです。

我々はソビエト時代から、部隊をアルメニアの基地に置いています。それはこの地区で、ある程度の安定化の役割を果たしていますが、誰をターゲットにするものでもありません。我々はキューバやベトナムなどを含め、世界のいろいろな地域で、我々の基地を取り壊してきました。これは、この点での我々の政策がグローバルでも、攻撃的・侵略的でもないことを意味します。

提案ですが、あなたの新聞に世界地図を発表して、その上に、すべての米軍基地のしるしをつけてみてください。違いは一目瞭然です。

時々私は、大西洋上のどこか遠くを飛んでいる飛行機について、訊かれることがあります。偵察機によって遠隔地をパトロールするということは、冷戦時代にソビエトとアメリカだけがやっていました。1990年代初期に、我々新しい現代のロシアは、こうした飛行をやめました。しかし、わがアメリカの友人たちは、国境の飛行を相変わらず続けています。なぜでしょう？ 数年前、我々はこの飛行を再開しました。するとあなた方は、我々がずっと攻撃的だったと言いたがるのです。

アメリカの潜水艦は、ノルウェーの海岸沖を恒常的に哨戒しています。それらは17分でモスクワに達するミサイルを備えています。しかし我々は、とうの昔にキューバの我々の基地をすべて取り壊し、非戦略的基地さえありません。それでも我々を攻撃的と呼びますか？

あなたは自分で NATO の東への延長のことを言いましたね。我々はどうかと言えば、我々はどこへも延長していません。我々の国境へ向かって移動しているのは、軍事インフラを含む NATO のインフラストラクチャーです。これは我々の侵略の現れですか？

最後に、アメリカは一方的に、対弾道ミサイル制限条約から脱退しました。これは国際的安全保障システム全体の要石として大きな意味をもっていたのです。対ミサイル装置、基地、それにレーダーが、ヨーロッパの地域と海域、つまり地中海とアラスカに存在しています。我々は、これは国際的安全保障を覆すものだとは何度も言ってきました。それとも、ロシアが一方的に武装解除するものと期待していた人がいるのですか？

私は、わがアメリカのパートナーに、一方的に条約を脱退するのではなく、我々3者、ロシア、アメリカ、ヨーロッパが一緒になって、ABM（対弾道ミサイル）システムを作ることを提案しました。しかしこの提案は拒否されました。我々はその時こう言いました、「このシステムは高くつくし、その性能は証明されていない。しかし戦略的バランスを確保するために、我々の戦略的攻撃の潜在力を開発しよう。圧倒的に強力な対弾道防衛システムを開発しよう。」その結果、この領域で我々は大きな進歩をしたと、私は言わねばなりません。

ロシアが攻撃行動を取るかもしれないという、いくつかの国の心配について言えば、**ロシアが突然 NATO を攻撃するなどという想像は、精神異常の人が、夢の中でしかできないこと**でしょう。私は、いくつかの国家が、ロシアに対する人々の恐怖を利用しているだけだと思います。それは単に前線に立つ役目を演じて、何らかの軍事的、経済的、財政的援助を受けようとする国家がやっていることです。したがって、そのような考えを支持するのは的外れで、全く根拠のないことです。しかし誰か、そのような恐怖を醸成することに、興味をもつ者がいるのかもしれませんが。これは推測しかできません。

例えば、アメリカ政府は、ロシアとヨーロッパとの親交関係を望んでいません。これは私の主張でなく、仮説にすぎません。アメリカは大西洋共同体の中で、リーダーシップを維持したいと思っているとしましょう。それには外からの脅威、このリーダーシップを確保するための外敵が必要です。イランだけでは明らかに不十分です。この脅威はあまり怖くも、大きくもない。誰が怖い人になれるか？ その時、突然、ウクライナ危機が始まりました。ロシアは反応せざるを得ませんでした。おそらくこれは仕組まれたものです。わかりません。しかし我々の始めたものではありません。

肝心なことを言っておきましょう——ロシアを恐れる必要はないということです。世界はあまりにも劇的に変わったので、少しでも常識をもつ人々はこのような大規模な軍事紛争を、今日、想像することもできません。我々は他に考えなければならないことが、いくらかもあるのです。

Paolo Valentino: しかしあなたは、イランとか、他の一連の問題についてアメリカと協力しておられます。そしてジョン・ケリーのソチ訪問は、これに関してもう一つのメッセージを送りました。それとも私は間違っていますか？

Vladimir Putin: 間違っていない、その通りです。我々はイランの核計画だけでなく、他の深刻な問題についても協力しています。アメリカが ABM 条約から脱退したにもかかわらず、我々の軍備コントロールの対話は続いています。

我々はパートナーというだけではありません。我々は、大量破壊兵器非拡散に関連する問題に取り組んでいる同盟国だと言ってもよいのです。我々は間違いなく、テロに対する戦いの同盟国です。まだほかにも協力している分野があります。あなたが最初に言われた **Expo Milano** の中心テーマは、我々の共同作業のもう一つの例です。実際、我々が共同で取り組み続けている沢山の問題があります。

Paolo Valentino: プーチンさん、5月9日にロシアは、あなたの祖国とヨーロッパ全体をナチズムから解放した「偉大な勝利」の、70周年記念式典を行いました。この勝利のために、ロシアほど多量の血の代価を払った国はありません。それなのに、赤の広場であなたの横に立った西側のリーダーはいませんでした。Il Corriere della Sera 紙は、このようなリーダーたちが姿を見せなかったことを批判する **Silvio Berlusconi** の手紙を公表しました。そこで2つ関連質問があります。

あなたは、彼らが欠席したことは、ロシア人民に対する不敬を表明するものとお考えですか？「大祖国戦争」の記憶は、今日、ロシアのアイデンティティにとって、どんな意味をもちますか？

Vladimir Putin: それはアイデンティティの問題ではありません。アイデンティティは、文化、言語、それに歴史の上に築かれるものです。この戦争は我々の歴史で悲劇の一頁です。私たちがこのような日々を記念するとき、この戦争で失われた命の多さを考えると、それは祝祭ですが悲しみの日でもあり、私たちは、我々の自由と独立を可能にしてくれたこの世代のこと、ナチズムに勝利した人々のことを考えます。我々はまた、誰もこの悲劇を忘れる権利をもたないという事実を想起しますが、それは第一に、将来このようなことを繰り返さないために、どうするかを考えねばならないからです。こういったことは単なる言葉ではなく、それは根拠のない怖れではありません。

今日我々は、例えば、ホロコーストなどというものはなかった、と言っている人々のことを耳にします。我々は、ナチスと彼らの協力者を讃美しようとする試みを目にします。それは我々の今日の生活の一部です。いろいろな現れ方をする今日のテロリズムは、ナチズムに非常によく似ています。実際、この2つの違いはほとんどありません。

あなたが指摘された同僚たちについては、もちろん祝典に参加するためにモスクワにやってくるかどうかは、個人の自由意志です。私の考えでは、彼らは、現在の国際的な関係の複雑さのために、単に過去につながるだけでなく、我々の共通の未来のために戦うことにつながる、もっと重要な何かを見落としているように思えます。

彼らはそれぞれの選択をしました。しかしこの日は何よりも我々の祝日です。ところでこの日、かなり沢山の国々から、退役軍人がモスクワに集まりました。アメリカ、大ブリテン、ポーランド、その他ヨーロッパの国々からです。実はこの日の本当の主演は、このような人々なのです。これは我々にとって非常に重要なことです。これらの祝典の間に、我々はソビエト連邦でナチズムと戦った人々だけを称えたのではなく、ドイツ自体の、またフランスやイタリアの、レジスタンス戦士をも追悼したのです。我々は彼らすべてを追悼し、ナチズムとの戦いで命を惜しまなかったすべての人々に敬意を払ったのです。

確かに、勝利へ導く決定的な貢献をし、ナチズムとの戦いで最も深刻な死者数を出したのは、ソビエト連邦であったことを、我々はあまりにもよく理解しています。それは我々にとって軍事的勝利以上のもの、道徳的勝利でした。ご存知でしょうが、ほとんどすべての家族がこの戦争で誰かを失っています。どうしてこれが忘れられるのでしょうか、それは不可能です。

.....